

「令和4年度第1回川崎区地域デザイン会議」開催結果概要

1 日時

令和4年10月20日（木） 14:00～15:50

2 場所

川崎区役所7階会議室

3 議題

「外国人住民の地域防災活動への参加を通じた地域とのつながりづくり」

外国人の防災に関するニーズ（情報発信や訓練の実施方法等）や地域の防災訓練等への外国人住民参加への課題等について、意見交換を行い、外国人住民の地域防災活動への参加を通じた地域とのつながりづくりの手法等について検討する。

4 出席者

- ・外国人コミュニティに係る区民・外国人 5名
- ・地域の防災に携わる区民 3名
- ・区役所職員（事務局含む） 8名

5 内容

- (1) 区長挨拶（開会）
- (2) 出席者自己紹介
- (3) 川崎区地域デザイン会議の概要及び今回のテーマについて説明（事務局）
- (4) 外国人向け防災講座や地域防災活動、外国人向け情報発信について説明（危機管理担当、事務局）

(5) 意見交換

○地域防災活動について

(地域の防災に携わる区民)

- ・防災訓練は川中島中学校で年1回、11月にやっている。以前は起震車や煙体験などを行っていたが、最近は避難所での実際の動きの訓練や災害の映像を見て自分達ならどうするかを考える訓練などを行っている。
- ・前から住んでいて交流のある外国人には参加してもらったことはある。
- ・マンションやアパートは入りにくいので、外国人住民がいることは知っていても声を掛けづらく、外国人住民の参加はあまり意識していなかった。
- ・数年前の水害の際に避難所を開設したが、避難者には防災訓練に参加していなかった方が多く、避難所のルールが分からず、トラブルもあった。
- ・今回の会議の話をいただいて、外国人の方はもっとわからないだろう、ということに気づかされた。
- ・臨港地区町内会連合会で年に1回実施している。避難所の受付訓練、消火器訓練等。今年は11月に実施予定。
- ・地域に外国人は多いが、言葉の壁もあり、町内会に入ってもらえていない。
- ・防災訓練の案内は町会の回覧でやっているのですが、なかなか案内できていない。
- ・何かのきっかけで交流を持つてからの方が防災の話などもしやすい。お互いを知ってからの方が詳しい話が出る。
- ・コミュニケーションのためにも、まずはいろいろな催し物に参加してもらいたいし、参加しやすい環境をつくっていききたい。

(外国人コミュニティに関係する区民・外国人)

- ・町内会活動には義理の母が参加しているが、私自身は町内会のことはよくわからない。周りのベトナム人もほぼ知らないと思う。
- ・ベトナム人の知り合いから、災害が起きたらどうしたらいいのか、という相談を受けることがあるが、私もわからないので、周りの人を見ながらとにかく逃げるようにと言っている。
- ・町内会には参加したいと思うが、どうやって参加したらよいかわからない。
- ・川崎に引っ越してきてすぐに町内会の人に誘われて加入した。回覧板は子どもに関するものは読んでいるが、ほとんど内容を見ずに次に回している。
- ・防災についてはよくわからない。以前、大きな地震が起こった時は近所の人の様子を見て非難するかどうかを決めた。
- ・災害時は携帯に情報が来れば見ると思う。Lineや中国人ならWeChat。

- ・家を買った人には誘いがある。誘ってもらえることはうれしいが、文化もわからないので、自分が入ったら迷惑をかけるのではないかと心配している人もいる。
- ・町内会そのものを知らない人もたくさんいる。
- ・子どもがいる世帯は、学校で行われる引き取り訓練を通して、防災については何となくは知っているが、実際に災害が起こった時にどうしたら良いかわからない、という話をよく聞く。
- ・日本語が出来る出来ないではなく、町内会や防災についての日本社会のなかでの文化が良く伝わっていないので、参加に躊躇してしまうのだと思う。
- ・以前の水害の時には、識字学級等の保護者の人たちから、避難所に行くべきか、家において良いのかななどの相談が多くあった。
- ・外国人の人たちは、SNS でお互いに情報を共有しながらどうにかしようという思いがあると思う。自分が安心できる SNS などの媒体で情報が来ると安心すると思う。
- ・私は町内会には入っているが、よくわかっていない。最近は回覧板を見るようになった。全部日本語なので、読むのに時間がかかってしまう。次に回さなくてはいけないので、読み切れないこともある。

○防災講座について

(外国人コミュニティに関係する区民・外国人)

- ・正しい情報を伝えることが大事だと思う。日常会話は問題ないのに、発災時など、いざという時にパニックになって日本語が出てこない。
- ・日本が自然災害が多い国ということは外国人もなんとなく知っているが、防災について学ぶ機会はあまりない。子どもは小学校などで学ぶ機会があるが、保護者自身が学ぶ機会はなかなかない。
- ・家族を守るため、学びの機会があるとみんな熱心になる。
- ・防災グッズは何をどれだけ揃えたらよいか分からない。また、用意する経済的余裕がない。
- ・災害は怖いけど、準備をするための情報と余力がない。誰かに聞きたいが誰に何を聞いたら良いかわからない、というのが外国人の実態だと思う。

○情報発信について

(外国人コミュニティに関係する区民・外国人)

- ・国によって使っているツールは違う。ベトナム人は Facebook。年代によっても違う
- ・大雨などの災害時に Facebook で情報を出すと反応がある。見ている人は見ているので、とにかく一方的に発信するようにしている。

- ・日本語講座に参加しない外国人は多い。家族全員言葉が分からない家庭もあるが、保育園に外国語のチラシを置けば見ると思う。
- ・インターネットからいろいろな情報が入ってくるが、SNS ではみんながいろいろなことを言っていて、何が正しい情報なのかわからない。正しい情報はどこから得られるのか知りたい。
- ・外国人はそれぞれのコミュニティのリーダー的な存在の人に頼りがち。そういう人とおした情報発信が有効だと思う。
- ・一方で少数言語の人も多くなってきている。ひらがなは読めなくても、日本語読みをローマ字で書いたものなら読める人はいる。
- ・ネット環境がない人も多くいるので、そういう人たちをどうフォローするかも考える必要があると思う。

(6) 今後の取組について

○地域防災活動への参加について

- ・自主防災組織でどのようなことを行っているのかを知ってもらうため、来年度の藤崎町内会の自主防災組織の訓練の様子を、外国人や外国人コミュニティの方たちに参加してもらう機会を作っていただく事は可能か。(事務局)
 - ⇒了承 (藤崎町内会自主防災組織)
- ・桜本一丁目町内会はどうか。藤崎町での事例を横展開できないかと思うが。(区長)
 - ⇒町内会の役員に外国語を話せる人がいないので、ふれあい館の協力があればできると思う。(桜本一丁目町内会)
 - ⇒協力する。(社会福祉法人青丘社)
- ・区は通訳派遣やチラシの翻訳という形で支援できる。(事務局)
- ・やり方などは、外国人コミュニティの方にも相談しながら、今後、検討・調整する。(事務局)

○防災講座について

- ・ベトナム人の知り合いから災害時の対応について相談があったという話があったので、マイタイムライン講座をベトナム語で開催するというのはどうか。(事務局)
- ・単言語であれば、参加者同士相談しながら進めることもでき、交流の機会とすることもできると思う。(事務局)
- ・グローバル文化協働支援センターはソーシャルデザインセンターの一員として、人と人をつなぐ活動をしているので、まずはベトナム人向けの講座をやっていただくというのはどうか。(事務局)
 - ⇒了承 ((一社)グローバル文化協働支援センター)

- ・区は講師派遣などの形で支援できる。(事務局)
- ・まずはベトナム語で開催し、他の言語でもやりたいという声があれば、グローバル文化協働支援センターやふれあい館にも相談して、開催していきたいと思う。(事務局)
- ・9月に県の国際交流財団と一緒にベトナム人向けの在留資格や永住権に関する講座を開催したが、1言語1イベントはスムーズに開催でき、良かった。また、ベトナム人コミュニティの促進にもつながったと感じた。
- ・私は通訳はできるが日本のルールをすべて知っているわけではない。外国人を受け入れてくれる日本人がいると助かる。
- ・コミュニティのみんなと何か出来たらよいと思う。
- ・1言語でのコミュニティの親睦促進を兼ねた講座は良いと思う。
- ・人数が少なくコミュニティのない言語の人たちもいる。ベトナムの次は中国や少数言語の人向けにやっても良いと思う。

○情報発信について

- ・SNSを活用して情報発信をすることも効果的だと思うが、情報の出所や内容が正しいものなのか見分けがつきにくいという意見もあったので、正しい情報の発信源はどこなのか、という情報をお知らせできるようにしたいと考えている。(事務局)
- ・電子だけではなく、紙媒体での情報発信もしていきたい。翻訳したチラシなどを外国人がよく行く場所（お店や保育園など）に置いてもらい、その場所をまとめたマップをつくれたらと考えている。(事務局)
- ・ソーシャルデザインセンターとしてのグローバル文化協働支援センターや青丘社のネットワークを活用していくのも良いと思う。(事務局)
- ・多言語版の場合は日本語もあわせて載せているとサポートする日本人が、外国人に説明しやすく助かると思う。
- ・川崎区生活便利ガイドはそうなっているので良いと思うが、あまり知られていないのではないか。
- ・翻訳した情報があるのに、それが外国人住民にちゃんと届いていないことがある。
- ・マップを作るよりも、チラシ等を外国人に渡して、各コミュニティで撒いてもらう方が効果があると思う。
- ・Facebook にベトナム人のコミュニティやふれあい館のグループがある。信頼できる情報がもらえればそこで私から発信しても良い。
- ・ソーシャルデザインセンターにいろいろな情報をまとめておくことは良いと思う。
- ・コミュニティに属していない人もいるので、外国人だけが知っている外国人がよく行く場所を調べて、そこに情報発信していくことも大事だと思う。

- ・小学校で防災教室をしており、日本語のマップを全員に配っているが外国語版の資料があるか支所に確認しているところ。その方がちゃんと一緒に学習が出来る。
- ・子どもに伝われば親にも伝わる。

(7) 総括（副区長）

- ・普段聞くことのできない現場の課題を聞くことができ、行政で把握していない情報をいただけたと思う。
- ・外国人支援の核となる黒江さんやふれあい館には情報がしっかり集まることを実感した。そういう所を通じて情報を発信してもらったり、行政に情報提供をしていただいたり、ということが必要になると思う。
- ・いただいた意見を行政で検討・試行実施のうえ、フィードバックしていければと思う。